呼び

第 9 号
発行 上田高女・染谷丘高校 東京同窓会事務局
〒134 東京都江戸川区中葛西3-9-11-506
☎ 03-3688-6591

平成六年度総会のご案内

若葉の美しい季節を迎えました．会員の皆様いかがお過ごしでいらっしゃいましょうか．私たちのふるさとも今頃はきっと梅・桜・桃・杏．がいっぺんに咲きほこっていることでしょう．

さて，左記により本年の総会を開催いたします．

記

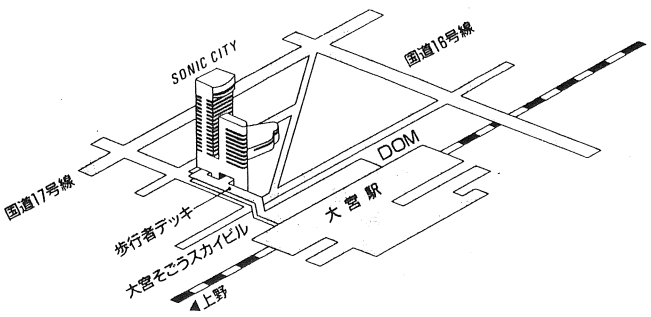
期　日　平成六年五月二十九日（日）
受付開始　午後四時半
開　会　午後五時
閉　会　午後八時
会　場　大宮そごう十二階
　　バンケットルーム
　　JR大宮駅西口すぐ目の前
電　話　〇四八－六四六－二一一一
会　費　金八千円也（年度会費金壱千円を含む）
　　同封の振込用紙でお振り込みください

付　記

◎会費の振込を出席通知に代えますので，出欠ハガキは同封いたしません
◎総会に欠席の方は，年度会費のみお送りください
◎ご出席の方は，五月十五日までにお振り込みください．会費振込後にご出席をお取消になった場合，五月二十四日までにご連絡があれば当日会費分は後日精算させて頂きます
連絡先＝〇三－三六八八－六五九一　佐藤

今回は，埼玉の皆様のお骨折りにより，会場を大宮に設定致しました．目玉は夕方からの集いであること，カラオケの用意があることです．ふだんとは違った視点での出会いもまた楽しいと思いますので，ぜひ皆様おさそいあわせのうえご出席くださいませ．

昨年総会のとき頂いたアンケートの結果，ほとんどの出席者が年度会費を徴収したほうがよいというご意見でした．そこで，ふたたび年度会費を集めさせて頂きます．なにとぞご了承くださいませ．詳しくは総会の席でご報告いたします．



信州五句

小幡道子　本45回卒

夏桑や母校古るびし奥信濃
花あんず信濃なまりの出店かな
安曇野や清水汲む児の列長し
新涼の安曇野の碑や合唱す
ひっそりと稲穂起しつ刈る農婦

大宮駅の近くにはこんな楽しみ場所がございます

大宮駅を出ると目前にそびえる31階建ての白いビル「ソニックシティ」このビルの31階と30階は，東京電力のショールームになっております．早く着かれた方は行ってみてはいかがでしょうか？

まず31階は
〇スカイパーク――県内一の高層ビルからの眺望はみごとなものです．スッキリと晴れていたなら，富士山・秩父連山・筑波山までそして県内は緑の地図を見る様です．
〇オープンギャラリー――絵画・写真・工芸品等の個展・グループ展が常設されております．
〇キッチンプラザ――歩きつかれたらちょっと一息，おいしいコーヒーケーキなどどうぞ!!
〇おみやげコーナーもあります．

30階には
〇体験ハウス――オール電化キッチン・健康機器等・最新の電化設備に直接触れてみて下さい．何かのお役に立つかもし知れません．
〇エレクトリックプレイラウンド――遊びながら，電気に親しめる　そんな楽しい場所です，子供に帰ってしまえる場所です．
〇Eライフスポット――ハウジングプランに役立つ資料がたくさんあり専門家が何でも相談に乗って下さいます．

各階ともコンパニオンさんが居て下さいます．何でもお聞き下さいませ．

次は，盆栽村のご案内です．

大宮駅から東武野田線に乗りかえ，一つ目の『大宮公園駅』下車，ゆっくりあるいて五分程で盆栽村に着きます．15ほどの盆栽園が散在している静かな場所です．季節の花が咲きこぼれるのどかな街並みを旧交を温めながら散歩が出来たら，きっと美しい想い出となることでしょう．又，この一角には漫画会館もあり昔懐かしいタイトルを目にすることが出来ると思います．

土屋邦子　高14回卒

収支計算書（平成5年4月1日～6年3月31日）

収入の部 項目	金額	支出の部 項目	金額
前期繰越	573,441	総会費	571,870
年会費	37,000	渉外費	31,000
総会費	408,000	通信費	9,910
寄附金	95,000	印刷費	46,350
補助金	5,000	会費	6,000
受取利子	9,370	事務用品費	3,930
		会議費	53,057
		交通費	42,120
		新聞図書費	40,000
		支払手数料	3,650
		次期繰越金	319,924
合計	1,127,811	合計	1,127,811

母校へのこころ旅

――上田染谷丘高等学校本部同窓会に出席して――

谷口静子　高2回卒

平成五年十月十六日，上田の空は青く晴れあがっていた．佐藤会長の呼びかけで，個人参加の五名（会長及び副会長の鷹野，糟谷，そして谷口，飯田）が，この日，「ささや」で開催の母校同窓会に心はずませて出席した．

よそゆきの気持が多少あったのか，会場入口ではなんとなくとけこめない私だったが，総会が始まると流れるような議事進行，会長はじめ各支部の方々の熱意あふれる挨拶を聞くうち，すっかりうちとけた気分になってくるのだった．タイミングよく出されるお茶を頂きながら，第二部に入ってからの太田教頭先生のユーモアあふれる講演も楽しめたし，私の隣りに腰かけていた男子同窓生（二十五歳位）と話あって，男女共学を実感もした．

懇親会場に移ってからは，もう東京組？であることをすっかり忘れ，歌あり，日本舞踊ありのアトラクションを楽しみ，お料理に舌つづみをうち，時を忘れて同窓気分を満喫した．たったひとり出席の男子後輩は，母姉的年齢の先輩たちから大いに歓待されていた．考えてみれば，私たちの母校も創立九十余年．人の一生八十年と言われる今日，人間の歴史ほどの時代を脈々と存在しつづけてきたわけで，これは大変な「時間」だと思う．一言で，伝統，歴史とくくってしまえない重いエネルギーを感じてしまうのは私だけだろうか．その一時期を同窓生として関わり，移ろいやすい心のどこかに，染谷の名がしっかりと刻みこまれている，と考えると，母校の存在はやはり凄い．また，染谷で受けた教育は，私に関して言えば非常に質的レベルが高く，今もってその影響を強く受けていることを誇りにしている．

同窓という名の良さは，互いの年齢や地位，状況にとらわれることなく，学び舎に夢を育んだ青春の心に戻れるということ．ふだん意識していなくても，長野――上田高女――染谷丘高校，という名の響きに，決して無関心ではいられない思いを，胸にとどめて生きていることだろうと思う．

時変わり，たとえ個々の面影が常でなくても，眼を閉じれば一気に，あの純真の時に駆け戻れるということ，故郷という名を互いに共有している喜びがあることだと思っている．そう思うと，学校とともに存在しつづける同窓会の果たす役割は非常に大きい．全国に（いや世界にか）散らばる同窓生の根となる本部同窓会の，ますますの発展を願いたくなるのは当然のことだろう．

この度の本部同窓会に初めて出席して，同窓という名の感度がいっそう高まった．母校の場所も変わり，上田市も変わっているが，胸の中にそよぐ四季の風，樹々の花の匂い，屹立する山脈，そして流れる川の音．それらは少しも変わることなく昔のままだ．

秋深まる紅葉の美しさ，陽降る輝やきの空を見あげて，私は，ああ来てよかった，これは旅ではなく，私の青春への帰すうだったのだと感じたのだった．

年次役員とバスケット部の想い出

丸山知江子　高3回卒

私が年度役員を引受ける決心をしたのは私のバスケット部の先輩．谷口（山口）静子さんが高2の役員をすると伺い，永年辞退致して居りましたがお逢いできる為お受けしました．というのも，バスケットは私の高校生活にとって，とても大切な体験だったからです．

上田高等女学校に私が入学したのは，昭和二十年，太平洋戦争末期でした．当時は勉強より勤労奉仕．殿城山の開墾，ジャガイモ作りなども体験するなど大変な時代でした．そして八月十五日終戦．やがて校名も上田染谷丘高等学校と変わり，私たちは併設中学に編入という形になったのです．何もかもが変革の時代でした．各部のクラブ活動も活発化しました．

私は元来音楽が好きで，五，六台あるオルガンの取りっこをし一時期は夢中になっていました．ところが或る日体操場に行くとすごい行列が出来ており，皆が順番を待ち，一ヶしかないボールでシュートをしているのです．小宮山先生がシュートの仕方を教えておられました．私はそれを見ているうち自分もやってみたいと思いその列に並んで待ちました．そして私の番が来たのです．初めてにぎるボール．背筋を伸ばしてしっかりボールを八の字に持ち膝をかがめてボーンと投げると，スッポリと入りました．「あっ入った」ナイスシュート！もう感激．その嬉しさ！バスケット部に入ろう．そう心に決めていました．生まれてはじめて握ったボールがバスケットに入ったのですから・・・それからはオルガンよりもバスケット．ボールの取りっこです．当時はボールが一～二ヶしかなくシュートの練習がしたくて皆の着ている洋服やボロ布を集めて紐で結び，ボールの形に仕上げ，それでシュートの練習をしたものでした．

後輩の人には信じられないことでしょう．

バスケット部員も多い時は百人位おり，小宮山先生は本を読み勉強しながらいろいろ教えて下さいました．朝，昼，放課後のトレーニング．帰る時には星がキラキラ光っている時もありました．私は鍛冶町に住んでいたため，学校には一番近く恵まれていましたが電車通の人達は一時間以上もかかり大変でした．私は近くて電車通の人より楽なんだからと朝六時頃に登校し，体操場の床を一人で雑巾がけし終る頃，電車通の先輩や先生が見え，練習が始まります．練習の厳しさに大勢いた部員も少くなり，各学年チームが残る程度になりました．泊りがけで方々へ遠征に出かけたのもなつかしい思い出です．当時はお米や芋，味噌などの食糧を持参して行くのです．でなければ旅館に泊めてもらえません．そんな苦しい中でも，念願の全国大会出場の切符を手にした昭和二十二年松本での地区大会は，生涯忘れられない出来事でした．待ちに待った優勝！静ちゃんの「頑張りましょう」「ファイト」「オライオライ」「ナイスシュート」大きな声．南川，池田，山岸，清住，三浦さんたち先輩と下級生の私や小河原，植村，浦野，宮澤，飯島さん皆それぞれに頑張りました．ハーフタイムの時は一升ビンに入った水を皆で飲みあいました．現在のようにスポーツドリンクなどという気の利いた飲物のない時代でした．泣きました．勝って嬉しかったのにあんなに涙して泣いた時はなかった．フスマ入りの，母が作ってくれたパンもおいしかった――今考えると，あんなにも粗末な食糧でよくあんなに動き走りまわれたあのファイトは，いったい何だったのだろうかと不思議です．ほんとに私の青春はバスケット一筋でした．数年前迄は小宮山先生の下，在校生，私達OGのバスケット部親睦会が続いていましたが，今では小休止．最近は，孫と近くの校庭でたまにシュートの練習をして楽しみ，「おばあちゃん上手ね，どうして？」と孫達にほめられ，昔の思い出話をしてやっております．卒業以来，色々なことで壁に突きあたったとき，いつも私をふるい立たせてくれたのは『バスケット』でした．練習の苦しみ，勝負の中で，知らず知らずに味わった人生修業，それが心の支えとなってくれたのです．たとえ一時期でもいい，ひとつのことに懸命に取組む青春を持つことが，どんなに素晴らしいことかを改めて感じているこの頃です．いま青春のまっ盛りの後輩たちへ心からのエールを送りたい気持でいっぱいです．

――ところで，平成六年度の打合せのため初めて役員会に出席した私ですが，その折，今まで知らなかった，会長はじめ事務局役員の方々，又，相談役の諸先輩のご苦労を痛感し，感謝の念とともに，今後は私自身も，バスケットで鍛えた？精神力で，微力ながらも東京同窓会のためにお役に立ちたいものと心から願って居ります．

お蔭様で

鷹野美津子　高4回卒

人生凡て其時其時の絵を描くが如く時を刻んで行けたなら最高ではないでせうか．

還暦を越えた近頃の生活を，充実したものにし度いと願いつゝも，一歩後退して居る自分に気がついたり致して居りますが，あせらずにゆっくりと一歩々々踏みしめて，自分自身を見失う事なく，生きて行き度いと思って居ります．

私は，決して裕福な生活をして居る訳ではございませんが，心に沸々と幸せを感じながら，毎日を送っております．

仕事に，趣味に，そして親族や友との交流の中に，日々新たな紅を見つめながら，本当に感謝の日々を過す事が出来る時，凡てのものに，お蔭様で，と御礼を申し上げ度いと思います．

平成六年二月

初めての東京同窓会

加藤荘子　高15回卒

「『東京同窓会』そういうものがあるのですか」「初めて聞きました」「私も行っていいのかしら」「当り前でしょう，卒業生だもの」「じゃあ，通知下さいね」

これは，放送大学の合宿（卒論指導）の折の先輩（染谷丘高校）との会話であった．

校舎が移転したとか学区が引かれたとか共学になったとか，変わってしまった母校は遠くに霞んでしまっていた．でも，話をしているうちに，色々ことが思い出されてきた．懐かしい，私にも高校生の時があったのだ．

そんなことが，きっかけで，五月三十日，初めての東京同窓会に出席した．知り合いは，まずいないであろうと思っていたのに，受付に見覚えのある人がいる．すっかり細身になって都会的になっているけれど，やはり，同じ年の彼女であった．うれしい再会であった．又，同じ町出身の美しい大先輩を紹介していただき，郷愁を感じた，四十余名の出席者のうち，知った顔は，ほんのわずかであったけれど，同じ学び舎で学んだということは，こんなに安心感と親近感を与えてくれるものかと思った．そして，会のために骨折られた人々の御苦労を思い，今日の出席を喜び，友人への「東京同窓会」の呼びかけを思った．